

1. 学校の教育目標

介護福祉士、作業療法士、言語聴覚士として医療・福祉の分野で活躍し社会に貢献する人材を育成することを使命とし、その実現のため今年度は、「言葉に出す」ことを行動指針とします。

言葉に出すことで自分の考えを確かなものにし、言葉に出し合うことで新たな価値を創造し、言葉で伝えることで地域社会に貢献する学校を目指します。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- 具体的な行動目標
- ・本校が果たす社会的役割と意義を自覚し、それを学生に「言葉に出して」伝え学習意欲を喚起するとともに、社会の一員として専門性が発揮できるよう、国家資格取得のための知識・技能の修得と福祉の心の養成のための教育の充実に努める。
 - ・新生会との連携を深め、教職員が臨床現場で臨床に携わり専門性を高めるとともに、授業の工夫改善に努め、教育内容を充実させる。
 - ・意思疎通を心がけ「言葉に出し合い」、相手の立場や気持ちを尊重しつつ協働し、一つ一つの課題に誠実かつ堅実に取り組む職場の雰囲気作りに努める。
 - ・「今日が開校日」の意識をもち、わくわく楽しみながら自ら進んで働く職場であるよう心がけ、常に創意工夫し「言葉に出し合い」、新たな意義と価値を生み出す。
 - ・地域社会に積極的に働きかけ本校の活動を「言葉で伝える」ことで、医療・福祉の必要性と重要性を啓発し、地域社会に貢献する学校づくりを進める。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) . 教育理念・目標 基準を上回り、特筆すべき取組等を行っている…3、基準をおおむね満たす…2、基準を満たしておらず改善が必要…1

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善点
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	③2 1	・理念・目的・育成人材像は学生便覧、パンフレット、ホームページに記載し、学生に対してオリエンテーションや授業等で周知している。 ・保護者、来賓出席のもと、入学式卒業式を開催した。また、入学式後の保護者説明会も開催し本校の教育目標及び方針について説明することができた。 ・11月22日にオンラインで保護者会を開催することができた。 ・学生及び保護者に対して随時個別面談を行っている。 ・引き続き、保護者に対し本校の理念・教育目標について発信できる機会を作り、共に学生を育成していけるような取り組みを継続していく。
・学校における職業教育の特色は何か	③2 1	
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	③2 1	
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	③2 1	
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに 向けて方向づけられているか	③2 1	

(2) . 学校運営

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善点
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	③2 1	・毎年、法人として事業計画を立てて、それに沿って運営している。諸規定により、意思決定機能が明確化されている。 ・業界とは教育課程編成委員会と学校関係者評価委員会及び各業界団体への参加により、よりよい活動を目指している。 ・学校評価については、2020年度に学則に記載した。 ・教育活動等の情報公開は、ホームページ、パンフレット、サンビ便りを通して行っている。 ・学校概要、前年度自己評価・学校評価をホームページ上で公表している。 ・学校単位、各学科単位でのインスタグラムを運営し、学校の日頃の取り組みを学校内外に伝える取り組みを行っている。 ・教務事務支援システム・学生情報共有システムを活用している。全教職員が機能を十分に活用できる状態を目指して取り組んでいる。 ・実務者研修においてはITツールを用いた業務効率化を進めている。 ・教務事務支援ツール等については、随時運用方法やシステムの見直しや改善に努めているが、多くの機能を全教職員が活用できるまでには至っていない。また、運用開始から2年経過しており、システムのアップデートについて検討していく。 ・各部署からの意見を取りまとめ、DX化による業務効率化と質の高い教育の実施を推し進める。DX検討グループを中心に定期的な検討会を開催し、システム及び運用ルールの改善に努める。またシステムの機能や活用方法については、教職員会議などを利用し、必要な機能が必要な教職員に伝わって活用されるよう取り組んでいく。 ・引き続き電子黒板・スマートグラス・3D教材の活用等による教育の充実化を図る。
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	③2 1	
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか	③2 1	
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	③2 1	
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	③2 1	
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	③2 1	
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	③2 1	
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3②1	

(3).教育活動

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善点
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	③2 1	・教育内容、到達レベルについては学生便覧pp.6-9、およびシラバスにより明確にしている。また、学年の特性を踏まえ、授業時間の追加、補講等を実施し、到達目標レベルまで、引き上げるよう工夫している。また見直しなどは教職員の振り返りや学生面談のみならず学生アンケートを実施し、学生のニーズをも取り入れ実施している。教育課程編成委員会で説明し、外部委員からの意見も参考にしている。 ・リハビリセンター白鳥の利用者評価・リハビリを定期的に行い、その経験を学生への実践教育に活用することができた。 ・国語力に課題のある学生に対し、すべての学科において個別で評価し、その対応を行っている。2025年度入学生からは全学科共通で国語に関する入学前教育を実施した。入学前から各学生の国語力を評価し、入学後の指導に活かすよう取り組んでいる。 ・留学生の日本語教育および本校教員への助言を元中学校長で、在外日本語学校長経験者に依頼している。また、留学生への授業には日本語教師の資格を持つ教員が指導に入り、様々な視点から指導を行えるよう取り組んでいる。 ・学外及び他学科の教員の協力を得ながら留学生の国語力向上を図っている。留学生の対応について困難がある時は、学科での検討をもとに教職員会議等で情報を共有し学校全体で考え、対応することができた。 ・各学科で特色ある授業や指導についての共有が毎月1回行われる教職員会議などで行われ、対象となる学生や指導方法の紹介をしている。科目担当や学科を超えて互いの授業を見学することを可能としているが、現状ではなかなか実現できていない。またこのような共有や検討が新たな教育手法の展開につながり学生指導に一定の成果をあげているが、客観的な効果判定については継続した検討が必要である。 ・作業療法学科、言語聴覚学科の教員が法人内施設にそれぞれ定期的に出向き、臨床に携わることで専門性を高める努力をしている。 ・進級・卒業判定については学生便覧p.3学則第16～18条、p.12学則施行細則第2条、第5条～18条により明確にし、成績判定会議（運営会議）にて協議の上、校長が認定する。 ・教員確保については、校長・総学科長を中心に学校全体として実施している。医師担当分野で確保に工夫をしている。 2025年度末に体調不良をきっかけとして作業療法学科の教員1名が退職となる。そのため、現在HPなどで教員を公募している。 ・オンライン開催の研修会を中心に、様々な外部研修会に参加することができた。 ・学生への個別指導は随時行っているが、場合によっては指導時間が大幅に延長することがある。学生情報共有システムを活用して日頃から情報共有につとめ、効率的な指導を目指す。 ・教職員が臨床現場での経験をもとに、それぞれが授業をより良いものにするために工夫改善に努めている。 ・2026年2月7日～8日に山形県民文化センターやまぎんで開催された第12回日本小児診療多職種学会に作業療法学科、言語聴覚学科教員が参加した。「本校の教育における認知特性の活用事例～理解を促す学びへの転換を目指して～」をテーマにポスター発表を行い、本校の認知特性を活かした教育手法について多くの参加者と意見交換を行った。また、様々な事例発表を通して本校の教育に参考となる知見が得られた。 その他の研修会（トヨタ式改善方式や発達関係）にも参加しており、専門分野のみならず学校の組織運営について必要な研修会にも積極的に参加している。
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	③2 1	
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	③2 1	
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	③2 1	
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	③2 1	
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	③2 1	
・授業評価の実施・評価体制はあるか	3②1	
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	③2 1	
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	③2 1	
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	③2 1	
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3②1	
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3②1	
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	③2 1	
・教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して組織的に行っているか。	③2 1	

(4).学修成果

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善点
・就職率の向上が図られているか	③2 1	・就職率は各学科就職希望者について100%となっている。 ・国家試験についてはCW学科では日本人学生は全員合格となった。OT学科では12名中11名が合格、ST学科では8名中6名が合格となる見込みである。 ・入試結果の検討を行い、クラス及び個人への国語基礎力向上への工夫、学生面談、保護者との連携を行い退学率の低下に取り組んでいる。 ・卒業生の状況を把握してはいる。就労、在宅分野で活躍しているものが多い。 ・卒業生の活動を、学校教育へのフィードバックとして捉え、整理する必要がある。卒業生の就労状況の把握を行っているものの、完全にはできていない。 ・引き続き卒業生の就労状況の把握に努める。
・資格取得率の向上が図られているか	3②1	
・退学率の低減が図られているか	3②1	
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3②1	
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校のエdukation活動の改善に活用されているか。	3②1	

（５）. 学生支援

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善点
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	③ 2 1	・学籍簿、個人記録、健康記録を整理している。またその情報をITツールによって一元化したシステムを2023年度から稼働した。担任制を採用しているが、あくまでも窓口と考え、学生がいつでもだれにでも相談できるようにしている。 ・信頼できる不動産業者に学生が住みやすい家賃のアパート情報を提供してもらっている。 ・入学式後の保護者懇談会、11月の保護者会・個別面談を開催するなど、保護者への説明や発信の場を設け、より良い連携ができるよう努めている。 ・卒業生への支援体制としてはないが、相談に来ることが多く都度丁寧に対応している。 ・NPO法人と連携して居住支援を行っている。 ・高校などに医療福祉職の紹介や出張講義を行っており、より多くの学生が医療福祉に関心を持つように工夫している。 ・県作業療法士会と連携し、卒業前に職能団体の活動意義について説明する機会を持ち、卒後の生涯学習への意識を高めるように工夫している。 ・学生に関する情報について各記録を備えており、教務事務支援・学生情報共有システムでのデータ一元化を行い、2023年度から稼働した。各種データは徐々に蓄積されてきているものの、その活用方法の周知が不十分である。適切な運用ができるよう進め、蓄積されたデータを活用する方法の検討を迅速に行う。 ・卒業生への支援が不十分だと感じている。ホームページに卒業生用のページを作成することを検討している。SNS等も活用し、より積極的に卒業生を繋がっていく。 ・介護福祉士の魅力を工夫して発信する必要がある。引き続き介護福祉士についての広報、啓発は県や自治体といった行政及び地域を巻き込みながら実施していく。 ・吃音や発達特性に課題のある学生が在籍しており、学びの支援については学科を超えた対応を検討している。吃音に関しては言語聴覚学科教員が国立身体障害者リハビリテーションセンター主催の吃音臨床に関する研修を3回受講した。今後は本校が対応可能な合理的配慮の具体例を内外に示していくべきと考える。 ・外国人入学生に対して、居住支援や日本語教育、防災教育など様々な支援を行っている。今後はホームページなどで留学生支援策を公表する体制を整えていけるよう検討している。 ・社会人経験者が経済面や学習面などの不安を解消して入学できるよう、異業種から医療福祉職を目指す方のための情報をホームページに記載している。
・学生相談に関する体制は整備されているか	③ 2 1	
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	③ 2 1	
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	③ 2 1	
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	③ 2 1	
・学生の生活環境への支援は行われているか	③ 2 1	
・保護者と適切に連携しているか	③ 2 1	
・卒業生への支援体制はあるか	3 ② 1	
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3 ② 1	
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	③ 2 1	
・障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生に対する支援を行っているか。	3 ② 1	

（６）. 教育環境

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善点
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3 ② 1	・全館Wi-Fiを整備し、学生がいつでも情報を入手でき、授業でも活用できる環境を整えている。 ・教育機器（PC）の計画的な更新を行っている。DX化に合わせ学内PC管理を徹底する。 ・全学科・学年の教室に電子黒板を設置し、授業や学生の自習に活用されている。また、VRによる解剖学学習システムを学生の自学自習に活用できるよう、校内で機器を利用できるスペースを設けている。今後も活用できる場を増やし、学生が自ら学ぶ意欲を高められるよう支援する。 ・2024年11月にライブラリースペースである「川辺の図書館あさぎいろ」をオープンし、学生と教職員が本を介した交流を行うことができる場所を整備した。5月18日に「絵本の世界を楽しむ会」、7月19日に「草木染めワークショップ」、12月7日に「ブックマーカークラッシュ」をオープンキャンパスなどのイベントに合わせて開催した。各イベントではあさぎいろの一般開放を行い、地域の方との交流ができた。 ・消火訓練では留学生が消火器使用未体験のため、水を使ったデモ用消火器を使用し消火訓練を実施した。日本での生活を送る上で大切な経験を得る機会を提供できた。 ・12月14日に池田町で開催された「第1回学生とともに炊き出し大訓練」に協力団体として参画し、学生がボランティアとして参加した。池田町内の学校や各種団体と防災について考える機会をもつことができた。 ・防災マニュアルの整備が不十分であるため、整備していく。
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	③ 2 1	
・防災に対する体制は整備されているか	3 ② 1	

（７）. 学生の受入れ募集

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善点
・学生募集活動は、適正に行われているか	③ 2 1	・学生募集は、誇大表現することなく適正に行っているが、教育成果を伝えきれていない。学納金は、募集要項に記載したもの以外徴収していない。学納金については全国的にみて、最も安い学校に位置しているが、その妥当性を検討し、2024年度より作業療法・言語聴覚学科では教育充実費として年間5万円の徴収を行っている。 ・各種セミナー（高校生対象、高校教員対象）で認知特性や本校の教育について説明する機会を活用した。 ・保護者会と書面にて説明を行い、本校の教育方針・成果それに見合う学納金について一定の理解は得られている。 ・ホームページ、学生便覧などで引き続き学納金の適切な記載を行う。保護者からの問い合わせ等あった場合は丁寧に対応を行っていく。 ・社会人募集に特化した案内をホームページに掲載している。異業種から医療福祉職を目指す社会人経験者の不安を解消し、応募者数の増加を期待している。
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3 ② 1	
・学納金は妥当なものとなっているか	③ 2 1	

（８）. 財務

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善点
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3 ② 1	・法人全体では財務基盤は安定しており、現在はその力を借りて運営している。 ・法人として法令に従い財務情報を公開している。 ・学生への資料提供費用の学校負担基準が曖昧であった。
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3 ② 1	
・財務について会計監査が適正に行われているか	③ 2 1	
・財務情報公開の体制整備はできているか	③ 2 1	・教員の教育活動における経費の認識が不十分で経費負担の所在が不明確であったため、教員の経費に関する意識を高めていく。 ・全学科定員を満たしていないが介護福祉学科は留学生の入学生の増加により定員に近づいている。 ・教職員一人一人が今後数年で損益分岐点の学生数を集められるようさまざまな努力をしていく。

(9) . 法令等の遵守

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善点
・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	③ 2 1	・ 法令を遵守し、適性に運営している。 ・ 個人情報の中でも、成績管理についてはPC上で保存していない。 ・ 自己評価については、専修学校学校評価ガイドラインに沿って実施し、問題点の改善に努めてきた。自己評価結果は学校HP上で公表を行っている。 ・ 教務事務支援・学生情報共有システム活用においては、役職及び担当業務によって権限設定を行っているが、年度ごとに見直す必要がある。また情報の活用ルールについても定めているが、年度ごとに見直す必要がある。学内の状況に応じて随時見直しと周知徹底を実施する。
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3 ② 1	
・ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	③ 2 1	
・ 自己評価結果を公開しているか	③ 2 1	

(1 0) . 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善点
・ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	③ 2 1	・ 11月に陽の里まつりを開催した。リハビリセンター白鳥の利用者や地域の方々にも参加していただき、学生の日頃の学びを活かした展示や発表を行うなどの地域貢献を行った。 ・ 今年度も白鳥地区の方から、狂俳の指導していただき、地域との連携をもつことができた。 ・ 作業療法学科教員と法人スタッフとによるドライビングサポートクラブ（どらサポ）を開催した。 ・ 9月25日に岐阜県専修学校専門講師派遣事業として吉村道治氏を迎え、本校学生・教職員に向けて「近年の大震災の現状と防災対策について」をテーマに講演いただいた。 ・ 2025年度より本校作業療法学科教員を池田小学校4年生に派遣している。児童の困りごとを作業療法士の専門的視点から把握し、直接的に児童の指導を行うだけでなく、小学校教員が児童の特性やニーズに適した支援を行えるよう助言を行っている。 ・ 作業療法学科、言語聴覚学科教員を大垣特別支援学校に年間20時間派遣し、専門的知識・技術を活かした助言指導を行っている。 ・ 5、6、7、12、2、3月にサンビレッジ岐阜の協力のもとで未来発見プログラムを開催した。高校生に職業選択の一助となるようなキャリアセミナー、ワークショップを実施することができた。
・ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	③ 2 1	
・ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	③ 2 1	

(1 1) . 国際交流

評価項目	評価区分	現状、課題及び改善点
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	③ 2 1	・介護福祉学科の2026年度入学予定者は在日入学者31名、海外からの入学生1名を含め32名である。入学を希望した学生の多くは、在校生や卒業生からの紹介、または在校生が出身の日本語学校からの紹介がきっかけとなった。本校から日本語学校の訪問回数を増やし、日本語学校の教員と顔なじみになったことで、留学生の現状を知る機会を意図的に増やしている。 ・日本語学校を訪問することで現状は分かるが、すでに進学先を決めている留学生が多く、本校入学に繋がらないこともあった。毎年留学生を取り巻く状況は変わるので、留学生に関する情報を常にキャッチし、臨機応変に広報活動を準備をする必要がある。 ・今年度は、奨学金提供施設向けに学校見学会を開催した。施設側は、留学生が学ぶ姿を見ることで、卒業後の育成イメージを具体化することができた。留学生にとっては、卒業後の就職先に対する不安が解消される機会となった。また、奨学金提供施設に奨学生の介護実習を依頼することで、施設側は学生の状態を就職前に直接把握し、育成計画に反映させることができたようである。学生も施設の雰囲気を知ることで、就職先での仕事や生活をより具体的にイメージできた。 ・留学生の生活支援・学習支援について、その必要な支援の内容と量を明確にし、それぞれについて達成目標と方法、期日を教職員で共有することによって着実な業務遂行に努める。
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。	③ 2 1	・在籍管理についてはITツールに加え、学生記載の個票を用い確実に実施している。 ・2024年度入学した27名の留学生が全員卒業した。 ・留学生への納税の義務をはじめとする日本のルールの指導にはまだまだ、多くの指導が必要であった。 ・入学後の生活の安定化のためにコープの学生総合共済（個人賠償責任保険追加加入）への留学生全員の加入を推し進めた。 ・学生総合共済へ共済金の口座引き落としができない留学生が多く、口座管理指導に多くの労力を要した。口座引き落としができなかった留学生に対して、生活費の管理方法の指導をお金の管理という視点だけでなく、母国との違いを考えさせながら実施をした。 ・2025 自転車事故1件。信号無視により車と接触。軽傷であったが、コープ学生総合共済に加入していたため、保険対応ができた。 ・介護2年留学生に対する国家試験対策を年間を通し実施。しかしながら、日本語基礎力に課題のある学生もいたため、指導に苦慮した。 ・留学生に対し日本語基礎力の重要性を早期に認識させるための対策をとる必要があり、随時検討し実施していく。 ・本校に入学してから実施している日本語能力試験（模試）のN4の得点と国家試験模試結果に相関がみられた。 ・国試再受験となる既卒生に対し、11月から1月にかけて週1回程度オンラインにて国家試験対策を行った。 ・働きながら学ぶ既卒性が、国家試験合格に対する意識を継続して持ち続けることが難しい。今後は国試に対する既卒性のモチベーション向上のため、学校と就職先の施設間で協力体制を作っていく。
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	③ 2 1	
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	該当せず	